

- 気候変動の影響により激甚化する風水害や、切迫する大規模地震等への備えとして事前防災の取組を加速化する必要がある。また、新たな感染症との複合災害についても、国土強靱化の観点から、議論の必要性が高まっている。
- 令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨災害をはじめとする近年の水害では、氾濫想定区域の福祉施設が被災するなど、災害ハザードエリアに係る事前防災の観点で、課題が顕在化し、また、スーパー台風の東京湾直撃の可能性がある中、東京湾臨海部低地等に係る高潮等の対策については、その想定災害規模から、世論の関心を高め、検討を加速化する必要がある。
- 新たに「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を策定したことから、対策を踏まえた今後の検討の方向性について議論するため、ナショナル・レジリエンス（防災・減災）懇談会（座長：京都大学藤井聡教授）の下に事前防災・複合災害WG（座長：同）を設置し、課題と対応方策等について議論する。

【テーマ】

- 東京湾高潮対策や、7月豪雨で明らかとなった河川や土地利用の課題と対応方策の検討
- 首都直下地震や南海トラフ地震などの巨大自然災害における事前防災の検討
- 巨大自然災害とコロナ感染症の複合災害への対応の検討

【第1回・第2回のテーマ】

- ①スーパー台風による高潮対策等の課題と対応方策
（東京湾を対象に、地下鉄・地下街・港湾の浸水対策、広域避難対策、基幹的海上交通ネットワークの維持等）
- ②災害ハザードエリアに係る河川の整備・管理、土地利用の課題と対応方策

WG行程

R3年1月

第1回WG

- 東京湾高潮対策に関する取組について話題提供
- 論点整理

～R3年3月末

- ・WGのテーマは第1回WGの議論を踏まえ決定
- ・適宜、関係機関から現状や課題、検討の報告等

（テーマごとに議論）

R3年5月中

WGの意見整理

R3年6月中

レジリエンス懇談会
報告